



発行元: 龍高ネットワーク株式会社
発行元住所: 〒103-0011
東京都中央区日本橋大伝馬町10-6
フォーリッチビル8F

CONTENTS

p1._ 救援金収支報告と活動経緯
p2._ 送金方法とその背景
P3._ 社長挨拶
P4-8._ 5.12大地震后回川感想
P9-11._ 関連資料

◎募金参加人数(受付窓口別)

龍高ネットワーク(株)本社内: 18名
NIS KSP現場内: 13名
NIS 品川現場内: 4名
FX KSP現場内: 13名
その他: 4名

合計: 52名

◎収支報告

皆様からの募金総額: 445,000円
会社からの同額募金: 445,000円

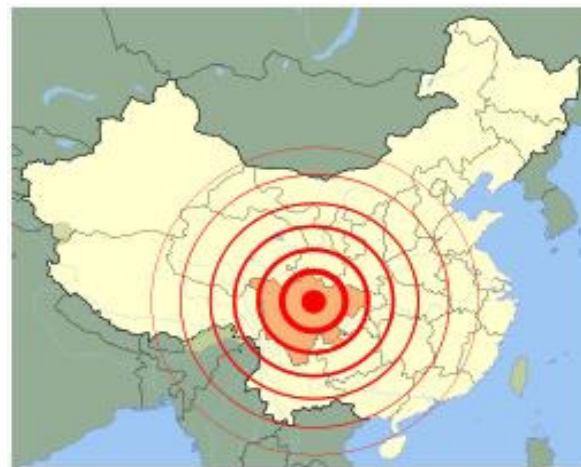
救援金総額: 890,000円
現地手渡額: 890,000円 = 56,300.51人民元
(0.063259中国元/日本円)
差引残額: 0円

募金参加者 各位

本年は、二〇〇八年五月十二日に発生した「四川大地震」の被災者に対する社内募金にご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。皆様より寄せられました救援金は、全て無事に被災者のお手元へ届けられました。

本件詳細をご協力者である皆様方へご報告致したく、今年一年の締めくくりに「社内報」を作成しました。遅れ馳せながら、左記のとおり募金収支をご報告申し上げます。

四川大地震 社内『救援金』募集結果



震央: 中国四川省汶川県
震源の深さ: 19 km
地震規模: マグニチュード7.9~8.0

募金活動の経緯

五月十二日 地震発生。
十六日 社長より救済援助の呼掛け。
十七日 社長、中国出張。
十九~二十一日 中国全土『全国哀悼の日』
二十一日 現地社長より連絡あり。
「皆さんからの募金額と同額を会社から出して二倍にし、被災地へ送ります。」
二十三日 募金締め切り。

七月十八日 当社の社員が中国出張の際、救援金を被災現地へ運び、手渡し。

「支援物資」と「分配機能」 中国の支援受け入れ体制は

皆様からお預かりした救援金は、五月下旬に募金締め切りとさせていただきました後、迅速に現地へと送金する予定でした。
しかしながら、中国側の「支援受け入れ状況」等の理由により、実際は「救援金」のお届けが七月中旬となりました。左記にその詳細をご報告申し上げます。

「救援金」送金までの背景

五月下旬には、中国国内および海外諸国からの支援物資が続々と中国に届きました。しかしながら、中国政府としては、過去に例がない規模で次々に流れ込む支援物資や救援金を目の当たりにしながら、その分配対応は未経験でした。

その結果、当初は支援物資を被災地・被災民へ効率的に運ぶことができずに、メディアに取り上げられた場所にだけ物資が集中して混乱するなど、分配機能に問題がありました。

そして、多くのボランティアや民間組織は、政府関連部門との連携が取れないままに独自の救援活動を急ぎました。その為、救援人員の配置にばらつきが起り、被災地へと続く数少ない道路(震災被害を免れた道路)も、ボランティア車両の渋滞で混乱しました。

このように、現地の混乱状況を把握した上で、「赤十字社」と「大使館」を経由する送金方法は早い段階で見送りとしました。



また、赤十字社などの公的団体を通じて送金した場合、私達の寄付金が具体的にどこに誰に渡ったのか、その詳細を知ることができません。このことも、公的団体を利用した送金をためらう理由の一つでした。

そこで、当社では『独自のルート』による送金を果たそうと、試行錯誤しました。その結果、銀行送金や第三者による受け渡し(の策)友人同士の受け渡し)を練りましたが、一番適していると思われたのが

『当社の社員が直接に現地へ救援金を届ける』という計画でした。

本計画を担当する社員の選定やスケジュール調整、そして被災地の交通事情や生活機能再生状況により、被災地訪問の日取りは七月中旬に決定しました。

これらの理由により、皆様から寄付をいただいた救援金を届けるまでに約二ヶ月の所要がありました。このことをここに報告申し上げます。

四川大地震救援金寄付報告書

寄付金額: 890,000日本円 (両替後: 56,300.51人民元)
寄付対象: 1. 四川省綿竹中学2008年度 高中卒業生20人 合計: 50,000.00元
2. 社員張敏の実家、及び、張敏の妻の実家 合計: 6,300.51元 (社長特別指示)

上記“寄付対象1”の「綿竹中学2008年度 高中卒業生」について

対象: 四川省綿竹中学* 2008年度 高中卒業生 (*日本の「中高一貫高」に相当) 地震被害低収入家庭、大学受験に本科を合格した学生のみ

人数: 20人

金額: 50,000元 (3,000元x10名、2,000元x10名)

方式: 現金、寄付対象本人に手渡し

社長挨拶

2008年もあと一週間で終わります。この一年は激動的な事件が沢山ありました。四川大地震、北京五輪、オバマという米国初の黒人大統領誕生、また百年に一回と言われる世界同時不況、等々。

それらの中で、特に「社員の皆さんの行動」に関する二つのことに、私は非常に感動させられました。その一つとして先ず挙げられるのは、四川大地震に対する皆さんからのご協力です。

大地震が発生した後、会社は社員全体に「救援金募集」として寄付金の呼び掛けをしました。その翌日に私は出張で中国へ入りましたが、被災地と被災者の悲惨な状況を目の当たりにして、想像していた以上に感銘を受けました。苦しんでいる四川の人々や子供達のために、私は「心を一つにしよう、被災者と被災地のために、少しでも力になれば」と思い、皆さんの動員と同時に、会社としても救援金を寄付することを決定しました。



その頃日本では、救援金の呼び掛けからたったの一週間で、本社社員や各顧客先現場の社員、中国出張中の社員、更には社員の親族や友人の方々からもご協力をいただき、45万円もの温かい救援金を集めることが出来ました。

社員の張敏さんより、「四川大地震では省内の学校の35%にあたる1万3千校が被害を受け、校舎の倒壊などで数千人の生徒や教師らが犠牲になった」という話を聞きました。そこで、我々が会社で集めた救援金および会社からの救援金は、被災した学生達へ届けることに決めました。救援金を必要としている人達が多くいる中で、社会へ羽ばたく前に進路を断絶された学生達も困っているに違いないと思ったからです。

我々が生活と仕事をしている日本は、諸外国に先駆け、いち早く国際緊急援助隊の救助・医療チームを派遣しました。中国ではその奮闘振りを高く評価する声が相次ぎ、私はテレビ前でその救出場面を見ながら、涙が止まらなく湧いて出ました。

「困難な時ほど真の友人が分かる」ということわざの奥深い意味を、その時私は痛切に感じました。現地では日本の小中学生が被災地に宛てた励ましの手紙なども展示され、大変感動しました。

中国国家主席である胡錦濤さんが来日した時、彼も日本の国際緊急援助隊隊員の一人ひとりを握手で出迎え、感動を伝えました。その時のあいさつで、彼が「皆さんの活動は日本人民の友情の表れ。中国人民は永遠に覚えている」と述べた場面は強く記憶に残ります。



もう一つの感動は、世界的な不況の中で、社員の皆さんが勤務意欲を貫いていることです。

2008年の秋以降、景気は急激に低迷し、最近はどこに行っても、不況による減員や減給などの暗い話ばかりが聞こえてきます。そんな中、我社の社員全員は以前と変わらない業務努力を続けているばかりか、いつも以上に仕事を頑張っている姿勢が見られます。私は皆さんのそのモチベーションの高さに感動しています。各顧客先現場でも同様だと思いますが、とにかく皆さんは仕事に対しても、勉強に対しても、熱気と活気が溢れていて、素晴らしいです。社員同志の間でも、いつも元気よく仕事についての議論を交わしています。打合せの時、皆さんの話の声や表情が明るいことが、私をいつも元気付けてくれています。皆さんという力強い社員を抱えていることは、会社にとって非常に幸福なことだと感謝しています。

激動の一年が過ぎて、まもなく私達は新しい年を迎えます。

この「2009年」という年が、世界をどのような方向へ導いて行くのか、まだ誰もわかりません。しかし、我々がこの仲間同士で共に励まし合い、共に苦難や成功を分かち合いながら進んで行けば、この不況も必ず乗り越えて行けると信じます。一致団結の精神で、今後とも社員の皆さんのご協力をお願いします。

今年一年、大変お疲れ様でした。
来年もどうぞ宜しく願い申し上げます。

龍高ネットワーク(株) 代表取締役 劉 玉勁

5.12 四川大地震後帰郷感想

経緯:

- 7・15(火) 7/15夜、社員の張敏さんが四川省綿竹県実家に到着。
- 7・16(水) 高中の担任(寧宏先生)を経由して四川省綿竹中学校校長(蒲曉蓉先生)との連絡を取得。校長から寄付に関する担当者(王信先生)を紹介され、王先生ご本人と面会。社内で集めた救援金を寄付する旨を伝え、寄付対象となる学生リストの抽出・作成、寄付対象学生の召集を依頼。
- 7.18(金) 午前: 綿竹県の銀行システムが完全に回復していないため、外貨両業務ができなく、近隣都市の徳陽市で日本円を人民元に両替。
午後: 午後3時に綿竹中学校の学生食堂前の広場に受援生を集め、寄付金を学生の皆さんに直接手渡した。
- 7.19(土) 張敏さんが綿竹から北京へ戻り、出張先大連龍高へ。

7/15(星期二)

火车从北京出发经过16个多小时,下午进入四川省地界。沿着山谷从北向南往成都的方向行进。5.12地震的塌方曾经使这条进入四川的重要通道中断数日,现在在一切都恢复正常了。从广元到绵阳,沿着铁路路的两旁都能看到地震受损房屋的残迹和星星点点的帐篷,偶尔也能看到成片的帐篷和搭建中的临时板房。大体上感觉自建的平房,2,3层的小楼,和大面积的工业厂房受损严重,居民区的楼房相对较轻。

7点以后,天色渐暗,火车慢慢的驶向成都市区,路灯照亮的是都市的光景。能感觉到这里离震中相对要远,几乎看不到被地震肆虐过的痕迹。

晚上9点,火车晚点2个多小时到达成都,坐上堂弟来接我的车,一路往西北方向靠近地震带近的老家绵竹行进。有点兴奋,又有很多不安。问堂弟情况怎样,他回答我就两个字“老火”!!!用东北话就是说“老上火”了,就两个字我能感受到他内心的焦虑不安和压力。

进入绵竹县城后,已近深夜12点,路灯昏暗看不清周围的情况,但是非常明显的跟以前有不一样的感觉。

自己心里知道,熟悉的家乡被改变了,并且是不可抗拒的力量。经过的道路的两旁都是灰蒙蒙的,大小高低不一的帐篷,空气里有很重的灰尘味儿,还好没有问到有消毒水和其他异味,稍微踏实了一点儿。



7/15(火曜日)

北京から出発して16時間後、列車は午後になってようやく四川省へ入りました。山の谷間に沿って北から南へ、列車は成都の方向へ走りました。5.12地震で起こった山崩れは、当時この鉄道を土砂で埋め、数日間に渡って列車の運行を中断させました。しかし今は正常運行となり、鉄道に震災被害の跡は全く見えませんでした。広元から綿陽までは、鉄道の両側に震災被害を受けた家屋の形跡が多く見られ、あちこちに点在するテントも目立ちました。時々、景色一面に広がるテント集落や、仮設住宅の建設現場も目に付きました。建物の被害状況は、「平屋」「2~3階建ての小さな一戸建て」「面積の広い工場」の被害は大体どれも深刻なものでしたが、住民区のビルの被害は比較的軽く感じられました。

午後7時を過ぎると、空は段々と暗くなってきました。列車は成都市街区に向かって疾駆しました。徐々に街灯が明るく映し出していく景色は、都市の光景でした。この地域は震源からかなり遠く離れている為、ほとんど震災の痕跡が見えませんでした。

午後9時、列車は2時間ほどの遅れで成都に到着しました。出迎えに来た従兄弟の車に乗り込んで、一路西北方向へ、震源地に近い故郷の綿竹へと出発しました。「どんな状況だ?」と従兄弟に聞くと、彼は「酷い。」とだけ答えました。私は、彼のこの短い言葉で、彼の心の内側にある焦りと、不安からくる落ち着きのなさ、そしてストレスを感じる事ができました。

綿竹県の町に入ると、既に深夜12時近くになっていました。街灯が暗くて、周囲の状況がはっきりとは見えませんでした。しかし明らかに、自分の中にある故郷のイメージとは違ったものを強く感じていました。私がよく知る、私の故郷は、変えられてしまいました。しかもそれは、阻むことができない力でした。道の両側には、大きさや屋根の高さが不揃いのテントが連続して張られていました。空気の中には、とても重いほこりの味がありました。幸いにも、心配していた消毒の臭いや他の異臭はなく、私はそのことで少しだけ、落ち着くことができました。

7/16(星期三)

睡在离路边很近的帐篷里,早上6点多钟就被过往的汽车吵醒,实在睡不着,就索性起来也想早点看看震后的县城变成了什么样子。出来一上路就明白了昨晚异样的感觉,这是一个被粉饰过的世界,是很重的粉尘。可能是地震扬尘没有散尽,正好又赶上搭建临时住房的高峰期,施工车辆带着工地的泥沙在公路和大街上匆匆来去,整个县城就像一个大工地。这一大早,看到路上街上和各处繁忙的光景,不但感觉不到震后的失望,沮丧,反而有点繁荣和蒸蒸日上的兴奋。据说县城周边各处散在有10来个上千人的临时住房居住区,援建的是江苏省,辽宁省,还有部队的子弟兵。除了这些中央摊派的对口援建以外,当然还有很多来自社会各界的捐助,这中间也包括日本在内的国际社会。

沿着以前熟悉的路转了转,所到之处都是帐篷,帐篷,帐篷。。。路旁的绿化带,空地,公园都是。印象比较深刻的是在十字路口的中心的绿化区里居然也有帐篷扎在那里,住在那里热门要忍受过往汽车的噪音,废气和穿过街道时的危险,但却逃离了余震和危楼带来的不安,我想他们也是不得已而为之。也被他们身上四川人特有的韧劲和吃苦精神所感动。在路上经常能看到没有挂牌的军用卡车和吉普车。汽车的成色很新,可以想象地震发生后,部队奉命赶赴灾区的同事,这些汽车也是从外地以最快的速度调配过来的。从这里可以感觉到两个变化,一个是政府的应急措施灵活快速,二是社会物质极大丰富。



县城城区加上周边的乡镇共有建筑物6千多栋,其中2千栋左右受损较小可恢复使用。其余的或需补强或需再建。地震已过去两个月,大多数居民仍避难于帐篷里无家可归。等临时过渡板房修好搬入后,再从长计议修补,重建永久住房。因为从上至下政策不明了,居民等政府,政府等国家。这点让人感觉当地的政府,单位和居民缺少自救意识。

各个居民集中安置点还有一日三餐的免费餐食供应,登记以后可以领到用餐卡,凭卡就能得到一日三餐。今天中午在岳父他们这边吃到了灾民饭,洋葱炒肉,让我想起中学时代大食堂的饭菜,味道不错。

7/16(水曜日)

私は道路のすぐそばに張られたテントに寝ていました。午前6時過ぎ、自動車の騒音が私を目覚めさせました。その後全く寝付くことができずにいた私は、陽の明るさの中で早く町の様子を見てみたいという気持ちもあり、いつそのこと起きようと、寝床を離れました。テントを出ると、昨夜暗がりの中で私が感じていた異様な感覚の原因がすぐに解かりました。視界に入るところ全てに粉塵が降り積もり、とても厚い層となっていました。地震発生時に空中へと散らされたほこりがまだ残っているのかもしれないし、或いは、ちょうど今が仮設住宅の建設ピークなので、その作業で積もった粉塵かもしれませんでした。

仮設住宅を建設中の工事車両は、工事現場の沈泥を運びながら、道路や交差点を慌ただしく往復していました。町はまるで、1つの大きな工事現場のようでした。この早朝の中、道路や各所で多忙に働く人々の光景を見た私は、地震後の失望と落ち込みを感じるどころか、日増しに向上・発展する町の繁栄を感じて、かえって少し興奮を覚えました。従兄弟の話によると、町の周辺には現在、数千人の入居が可能な仮設住宅が10箇所以上も建てられているそうです。もうすぐ人々は、今のテント生活から逃れて、仮設住宅に住むことができます。そのことを皆が期待していました。これらに関わる費用を援助してくれるのは、江蘇省、遼寧省、そして人民解放軍です。これら中央政府の割り当てた援助以外にも勿論、たくさんの社会的援助が寄せられています。この中には日本を含めた海外からの援助もあります。

私が昔からよく知る道に沿って少し歩くと、行く先々はテント、テント、テント・・・全てテントで埋め尽くされていました。道の両側、グリーンエリア、広場、公園、全てがそうでした。

印象に残っていることとして、交差点の中心にある草地エリアにまでテントが張ってあったことが、意外でした。そこに住んでいる人々は、自動車の騒音や排気ガスを辛抱しながら、交通量の多い道路を渡る危険を常に冒していました。しかし彼等はそこに住むことによって、余震の恐怖と、危険な建物の倒壊不安から逃げる事ができたのでしょう。彼等もやむを得ずにそうしていたのだと、私は思っています。彼等の四川人としての特有な粘り強さと、苦しみに耐える強い精神力に、私は改めて感動させられました。

路上では、プレートを付けていない軍用のトラックとジープをよく目にしました。車両の新しさから想像すると、地震発生直後、軍隊は命令を受けて被災地区に駆けつけると同時に、これらの車両も遠い地方から迅速なスピードで調達してくれたのだと思われます。

(7/16 日本語訳 次ページへつづく)

(7/16 日本語訳 前ページからのつづき)

町中心部の市街区と周辺の郷・鎮(行政区画や町)を含めると、建物は6千数棟ぐらいあります。その中の3分の1(2千棟)ぐらいは地震の被害が少なく、既に住める状態まで回復されています。残り3分の2は、耐震工事或いは建て直しをしなければなりません。地震から2ヶ月が経っていましたが、大勢の住民は依然としてテントでの避難生活を強いられ、帰る家がありません。この地域は7月に入ると日中の気温が常に30度を超えます。蒸し暑い為に体感温度はもっと暑く感じられます。被災民の皆さんは多分、一日も早く仮設住宅に移り住みたい気持ちだと思います。

各地の住民避難所では、1日に3食の無料給食を行っています。地震発生後から既に2ヶ月の間、この食糧配給は続いていました。綿竹県だけでも数十万人の被災民がいるので、この給食を維持する為には、果たしてどの位の費用が掛かるのか、私には想像が付きません。しかしながら、今の中国には経済力があることを改めて実感しました。今日のお昼は義父のところまで被災民飯(被災住民への配給食)を頂きました。タマネギと豚肉の炒め物で、味は悪くありませんでした。私は高校時代の食堂の食事を思い出しました。

7/17(星期四)

下午抽空前往汉旺看了看，汉旺位于绵竹西北10多公里的龙门山系的山脚下，正好在地震断裂带上。他是属于绵竹的一个小镇，镇区人口数万，但却拥有一个年产值近百亿元的重型机械厂。正因为如此，汉旺的灾情和损失远比汶川，青川都要严重，以至于温总理在震后第一时间视察灾情就去了汉旺。驱车一路往西北去，看到的是跟城里完全不一样的景象。城里以楼房居多，虽然受灾也很厉害，但房屋几乎都是站着的，完全倒塌的很少。而城外靠近山区的地方，以农民自建的房屋居多抗震系数低，几乎都被完全摧毁夷为平地，有的甚至比人为拆除的还要彻底，看到地上残留的如粉碎过般的瓦砾，想像当时情景有点心惊肉跳。在途中经过曾是商店街的地方，以前的建筑物已荡然无存，在残迹黑色的瓦砾中间搭建了各式各样的帐篷，有的是居住的，有的用作商店，摆满了各种日用品。帐篷密密麻麻地往西排开，在远处地势稍高的地方，正在搭建望不到边际的临时板房，估计能容纳万人入住。周围匆忙来往的车辆噪音，夹杂着飞扬的灰尘弥漫在潮湿闷热的空气里，令人呼吸不畅。然而他们还得在这样的环境里生活数年，来重新构筑他们蓝天白云和安逸祥和的生活。我为他们加油也暗自怨恨老天的不公。

临近汉旺镇街口，远远的看到了在网上报道过的汉旺钟楼，他静静的矗立在那里，指针停在了地震发生的那一刻-14点28分。



7/17(木曜日)

午後に時間を作って、漢旺へ被害状況を見に行きました。漢旺は、綿竹から西北方向へ10数キロメートル進んだところにある「龍門山系」のふもとで、ちょうど地震断裂帯に位置しています。漢旺は綿竹県にある小さな町であり、人口は数万人程度ですが、年間生産高が百億元近くに達する大型の機械工場があります。このように、漢旺は重要な「工業中心の町」であるため、今回の地震による損失はブン川、青川よりずっと深刻だと思います。その理由で、温首相が地震発生後の早いうちに災害状況を視察した町の中に、漢旺の町は含まれていました。車が一路西北へ走るにつれ、目にする被害状況が市内(城里)とは全く違ってきました。市内には数階建てのビルが多くあり、それらはどれも同様の震災被害を受けてはいましたが、ほとんどが外観を維持した状態で、完全に倒壊している建物はごく少ない様子でした。これに比べて山岳地帯の間近にある田舎(城外)は、多数の農家家屋の防震レベルが低い為、ほとんど完全倒壊して廃墟になっている状態でした。その状態は余りにも酷く、人工的に取り壊した場合よりも更に徹底的な壊滅状態でした。残された瓦礫が機械によって粉碎されたようなものも見えました。日本の生活で数え切れない程の地震を経験していても、その様子に戦々恐々となりました。途中、かつて商店街だったところを通ると、以前の町並みはすっかりなくなり、建物の痕跡が残る黒い瓦礫の中に様々なテントが張られていました。住居として使っているテントの他に、各種の日用品をたくさん並べて店舗として使っているテントもありました。テントは隙間無く遠く続き、その向こうの高台には仮設住宅が果てしなく、視界いっぱい建てられていました。ざっと眺めただけでも数万人が入居できる程の広さがありました。この辺りも市内と同様に仮設住宅建設のピーク時期でしたので、周囲には、慌しく往来する車の騒音、高く上がるほこり、湿っぽくて蒸し暑い空気が充満していました。正直に言えば、そこにいるのが本当に耐えられない状態でした。しかし、ここに住む人々は、このような環境の中で数年間は住み続けなければならないのです。彼等の努力により、元々の美しい田園生活がきっと戻るだろうと、私は彼等を信じています。“頑張れ！”と、私は自分の中で言いながら、こっそりと神様の不公平さを恨みました。漢旺鎮街道の入口付近で、遠くに「漢旺の時計台」が見えました。「四川大地震発生時刻で針が止まった時計」としてインターネット上でも報道された時計台です。時計台は静かにそこにそびえ立ち、時計の針は地震発生あの時刻「14時28分」で止まっています。



右奥に「漢旺の時計台」(写真:日経アーキテクチャ)

(7/17 前ページからのつづき)

小时候我在汉旺呆过3年，以前那个叫五楼的代表性的最高建筑已经不在。取而代之的是高高低低的新楼。它们象钟楼一样矗立着的还是居多，但破损严重，从破落的窗户阳台台，外墙上蛇形一般的裂缝，周围散落的残垣断壁能说明一切。进入市区街道的入口有站岗的士兵，地震已过去两个月，现在还处于戒严状态，没有特别的通行证不能进入市区。这里有广场，公园，汽车站，原本该很热闹的地方现在却空空荡荡，除了我们几个和站岗的士兵之外没有别的行人。安静的让人害怕。

从汉旺返回的途中顺便拐上沿山道。这条路是沿着西北方向的划了一条弧，有十几公里，沿山脚而建。穿过九龙，遵道等乡镇。政府了发展沿山经济，数年前修了这条路。乡镇和村民也配合政府，投入了大量的资金和人力在果林和旅游业上，经过近10年的努力刚好开始取得效益尝到收获的甜头。据说近两年的夏季，从成都等地来这里来旅游度假的游客爆满。就在3个月前的4月份，世界超级模特环球大赛巡游的第一站就选择了遵道镇，万科王石一亿人民币的定向捐助对象也选择的是遵道，足见沿山一带旅游资源的吸引力。但突如其来的灾难打碎了他们的努力和梦想。沿途看过去损害相当重，尽是倒塌的房屋，平坦宽阔的地方有时能看到大片的帐篷，有的索性在倒塌的房屋旁就搭建上了临时房，他们舍不得他们的家，舍不得苦心经营的地方。单单恢复基础设施怎么也得华3，4年，如果恢复生机和人气，那肯定需要更长的时间。真为他们难过。

小学校時代、私は漢旺に3年程生活していたことがありますが、当時の代表的な5階建ての建物(当時は一番高かった建物)は既になく、代わりに新しい建物がたくさんできていました。それら多くの新しい建物は時計台のように倒壊を免れていましたが、破損は深刻でした。ぼろぼろに砕けた窓やベランダ、そして外壁には蛇のような亀裂があちこちに走っていました。市街区の大通りの入口には兵士がいて、地震後既に2ヶ月が経っていても、今もまだ戒厳状態が保たれていました。特別な通行許可がないと市街区の中には入れないと言われました。広場があり、公園やバス停もあり、もともとはとても賑やかであるはずのこの一帯が、今は私達何人かと見張りに立つ兵士以外に、通る人がいません。静か過ぎて、恐れを感じました。

漢旺から戻る途中に山道を通りました。この道は西北方向の1本道で、長さが十数キロメートルあり、山すそに沿って作られた道路です。ふもとにある「九竜鎮」、「遵道鎮」などの村や町を繋いでいます。政府は山岳部の経済を発展させるために、数年間掛けてこの道路を作りました。周辺の郷・鎮と村民も積極的に協力して、果林業と観光業に大量の資金と人力を投入しました。10年程続いたこの努力の結果、現在ようやく利益が出始め、人々は道路の経済効果と収穫の喜びを味わい始めているところです。近年は成都などの都市部からの観光客が旅行・レジャーの目的でこの地を訪れ、夏は2年続けて超満員になっているといわれます。また、3ヶ月前の今年4月には、この「遵道鎮」の地がファッションモデルの世界大会において「一番目」の会場として選ばれました。(遵道鎮は、後に中国最大の不動産開発会社「万科企業」が四川大地震に際し、被害の大きかったこの地へ非営利目的の復興・再建作業に1億元(約15億円)を投じたことでも有名です。)このように、この山岳一帯の観光資源は明らかに人々の注目を受けている、魅力的なエリアとなりました。しかし、突然起こった災難は、人々の努力と夢をも破壊しました。私は悲しい思いで一杯です。道路を進む途中、窓から見える被害状況はかなり深刻で、倒壊している家屋ばかりです。これからインフラの再整備を始め、震災前の賑やかな観光地と人々の集客力を回復するまでには、少なくとも3~4年か、更に長い時間が必要だろうと思います。



7/18(星期五)

下午2点半,拿着从银行换来得人民币捐款来到学校,学校门口有很多人,因为这几天高考成绩公布。负责捐款的王老师已经等在那里了,我跟着他进到学校里。来到食堂前已经聚集了很多受助学生和他们的家长。我们很快办好款,写上受助学生的名字,装好信封。学生们分两排一字排开,蒲校长把捐赠款发到每个学生的手里,讲了点鼓励学生的话,我也代表公司将了几句,这样快速简单而又庄重地完成了捐助。我心里非常高兴,一是完成了大家的心愿和公司交给的任务,二是我觉得自己做了一件非常有意义的事。

学校是四川省重点中学,师生共3千多人。这次地震学校损失也很严重,万幸没有校舍倒塌和师生死亡。这也说明学校教学楼的质量把关较好。除了是平房的餐厅以外,其他的教学楼受损不能使用。学生们正在搬设备和桌椅到新盖的临时板房学校。

— 张敏 —



7/18(金曜日)

午後2時半、日本から持参した救援金を持って銀行へ行き、両替した人民元を持って四川省綿竹中学校へ向かいました。この学校は四川省の中でもレベルの高い中学校であり、教師と生徒を合わせると3千人前後の規模となる、教育環境・施設共に優れた学校です。今回の地震による学校の被害は深刻ですが、幸いなこととして、校舎の倒壊と教師・生徒の死亡がありませんでした。これは、重要な教育施設として、校舎の建設工事が正確に行われていた結果と言えるでしょう。しかしながら、平屋の「学生食堂」施設以外の教室棟は震災被害を受けて使用することができません。学生さん達は机や椅子などの備品を運んでいました。彼等は、新たに建てられた仮設住宅内にある「臨時学校」への引越しをやっているようでした。

この学校では数日前に、大学受験成績の発表があったばかりです。学校へ着くと、校門の前には大勢の人々がいました。そこには既に、今回の「救援金」の件を担当する王先生もいらして、私を待っていました。私は彼の案内に従って学校の中に入りました。すると、学生食堂の前には、救援金の寄付対象となるたくさんの学生さん達が集められていました。私達は早速、学生人数分の現金と、寄付対象学生の名前を書いた封筒を用意しました。学生さん達は前後2列に分かれて横に並びました。校長の蒲先生は、各学生さんに1つずつ、救援金を入れた封筒を手渡ししました。そして校長先生と私から、激励する言葉を学生の皆さんに贈りました。私は普段、あまり大勢の人前で話す機会がないので、少し緊張しました。でも会社の代表として、私は意義がある役を務めさせていただいたという思いで、嬉しいです。

— 张敏 —



綿竹中学ホームページ

<http://www.scmzxx.com/article.aspx?id=234>



【資料①】: 救援金両替明細書

中国银行 个人因私结汇单
Bank of China Exchange Memo For Individuals

中国银行 BANK OF CHINA 兑换水单 EXCHANGE MEMO/ADVICE

会计函单号 0000062
柜号 1488
操作员号 0045
日期 2008/07/17

币种: 美元 (USD) 金额: 19890.00
币种: 日元 (JPY) 金额: 301597.30

现 钞 现 钞

国籍: 中国 Nationality: China
姓名及签字: 王琳琳 Name & Signature: Wang Linlin
地址/酒店: JPY 收: 890,000.00
CNY 付: 56,300.51

摘要: 视物

FOR BANKS 印

经办: 杨... 复核: 张... 授权: 业务公章:

【資料②】: 救援金对象学生選考リスト

龙高网络有限公司员工捐助2008级贫困学生统计情况

姓名	性别	年龄	科类	家庭地址	父母职业	联系电话	家庭情况	受灾情况
王宇峰	男	19	理科	绵竹市汉旺镇迎宾路粮站	无业	15883407887	父亲早逝, 母亲无业, 无固定收入。	房屋倒塌, 家人安好
范西尧	男	19	理科	绵竹市五福镇永丰村1组	打工, 务农	13778236553	家庭全部收入为父亲打工所得, 有奶奶要赡养	房屋为危房
李刚	男	19	文科	绵竹市玉泉镇槐树村7组	农民	6671634	勉强能维持基本生活	房屋损毁无经济来源
李晓雪	女	19	理	绵竹市什地镇同义村十七组	打工, 务农	13541719329	父亲重症肺炎, 父亲打零工, 母亲务农	房屋损毁无经济来源
陈云	男	19	理	绵竹市富新镇三合村6组	打工, 务农	6404939	家庭贫困, 年收入1万	房屋基本倒塌
张靖	女	18	文科	绵竹市剑南镇7分会	待业	13981026899	三个人, 下岗, 收入靠一店铺, 勉强能维持基本生活	房屋D级, 店铺损毁, 无经济来源
鄧冬梅	女	18	理科	绵竹汉旺镇群方村6组	农民	13881021248	父母务农, 家庭月收入800	房屋损毁无固定收入
龙袁	女	19	理科	绵竹什地镇双瓦村5组	农民	15884272072	父母务农, 家庭贫困	房屋损毁无经济来源
陈建	男	19	理科	绵竹孝德镇白衣村5组	农民	13778416130	父母在家务农, 父亲残疾, 家庭贫困	房屋损毁倒塌严重, 无经济来源
廖全俊	男	18	理科	绵竹剑南镇红明村北段92号1单元1楼	个体	13320850612	母亲无业, 家庭月收入1000	房屋损毁无固定收入
秦海平	男	18	理科	绵竹新市镇石虎村8组	农民	15883857995	父母务农, 家庭贫困	房屋损毁无经济来源
王斌	男	18	理	绵竹市福远镇场镇福兴街61号	务农	13198270799	父母务农, 家庭贫困	房屋部分倒塌
马宇	男	19	理科	玉泉镇玉江路163号	农民	15983829606	家庭收入仅维持生活, 赡养老人	房屋为危房
李宏	男	20	理	绵竹道观9大8	务农	15892877107	父母务农, 家庭贫困	房屋为危房
韩兵	男	18	理	西南镇合隆村六组	农民	13778418718	父母都务农, 母亲患皮肤病, 年收入4500左右	房屋倒塌, 父母在家待业
钟朋	男	18	理科	绵远镇西坪村6组	农民	13689639429	父母在家务农, 欠几万圆账。	房屋损坏, 无法居住, 经济瘫痪,
李景超	男	18	理科	东镇三湾委	无	13219870017	月收入1200左右, 供养奶奶	房屋为危房
赵武	男	20	理科	绵远镇枫树村6组	务农	13795900621	奶奶和妈妈体弱多病, 家庭无固定收入	房屋全部倒塌, 自己身受伤
冯婧	女	18	理科	绵竹市剑南镇吉黄桥剑油公寓	小学教师	13881043922	月收入800左右, 母亲2002年因车祸去世, 爷爷奶奶需供养	房屋受损严重, C级, 无人员伤亡
李俊	男	19	理科	齐天镇上台村2组	农民	13550615913	父务农, 母打工, 年收入4500	房屋损毁无经济来源

四川省绵竹中学
2008年7月18日

【資料③】: 救援金受領証

龙高网络有限公司员工捐助2008级贫困学生助学金发放清单

学生姓名	金额	学生签字	家长签字
龙熹	3000	龙熹	龙宇云
陈建	3000	陈建	陈英双
廖全俊	3000	廖全俊	廖申云
秦海平	3000	秦海平	秦昌全
李晓雪	3000	李晓雪	李发如
陈云	3000	陈云	杨万英
邱冬梅	3000	邱冬梅	邱友云
李宏	3000	李宏	李文臣
王诚	3000	王诚	王瑞龙
钟朋	3000	钟朋	张尧珍

学生姓名	金额	学生签字	家长签字
王宇峰	2000	王宇峰	王五
寇西龙	2000	寇西龙	寇之友
李刚	2000	李刚	魏清红
马宇	2000	马宇	马琳
张靖	2000	张靖	张莹
韩兵	2000	韩兵	黄玉如秀
李景超	2000	李景超	李兴富
赵武	2000	赵武	赵厚培
马婧	2000	马婧	马荣林
李俊	2000	李俊	李开华

四川省绵竹中学
2008-7-18




【资料④】: 学生からの感謝の手紙

尊敬的龙高网络的叔叔阿姨们:

首先,怀着感恩的心提笔,想把“感谢”传递给你们,希望远方的你们能收到绵中学子的一片感恩之心。

突如其来的5.12地震摧毁了我们的校园,怀揣着失去家园的悲痛,失去亲人的痛楚,我们又在离绵中不远的县城又开始高考的冲刺复习。终于到了今天,风雨之后的大晴天,可是昂贵的大学学费使我们志而却步,然而此时身在远方的你们伸出援助之手,为我们成就大学的梦想铺砖垫瓦。内心的感激无法言语,唯有以满腔热情,在大学中发愤图强,取得优异成绩,做一个对社会有用的人。

“莫将青史让前贤”是绵中百年的校魂。我谨代表所有接受捐赠的人宣誓:

我们一定继承你们的作风,努力提升自我,在别人需要帮助的时候,伸出援助之手——将爱心传递!

虽然,我们遥隔着千山万水,但我们仍感受到各位叔叔阿姨的热忱爱心,再次感谢你们的帮助。

贵公司有如此多的爱心人士,相信龙高网络明天一定会更好!我们有你们的帮助,明天也一定会更好。

最后,还是要特别感谢张敏邦哥,谢谢你在危难的时候,心系你的师弟·师妹们,你是我们的榜样。

祝: 身体健康!

天天开心!

绵中所有受捐赠学子

2008年7月18日

(我们是坐在帐篷的小桌中写的这封感谢信,也许材料很简单,薄薄的两张纸,但我们条件有限,只是想向各位表达内心的谢意!)